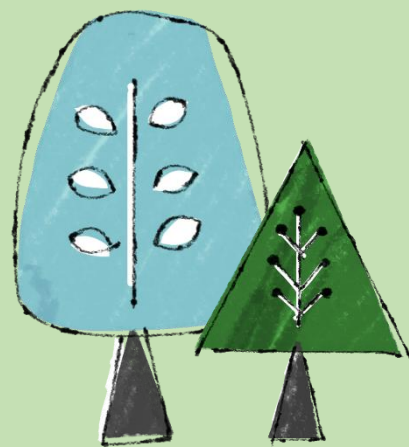


くまもと森都心プラザ図書館がおすすめする



森を知るための本



『日本の森列伝 自然と人が織りなす物語』 米倉久邦/著 (山と溪谷社)2015

『人と森の物語 日本人と都市林』 池内紀/著 (集英社)2011

『図解 これならできる山づくり 人工林再生の新しいやり方』

鋸屋 茂・大内正伸/著 (農山漁村文化協会)2003

『楽しい山里暮らし実践術』 大内正伸/著 (農文協)2013

『森ではたらく! 27 人の 27 の仕事』 古川大輔・山崎亮/編 (学芸出版社)2014

『小さい林業で稼ぐコツ 軽トラとチェーンソーがあればできる』

農山漁村文化協会/編 (農山漁村文化協会)2017

『ツリーハウスを作りたい』 ツリーハウス倶楽部/編 (二見書房)2016

『生き物としての力を取り戻す 50 の自然体験 身近な野遊びから森で生きる方法まで』

カシオ計算機株式会社/監修 株式会社 Surface&Architecture (オライリー・ジャパン)2018

『子どもと木であそぶ 樹木医が教える「木あそび」ガイド』 岩谷美苗/著 (東京書籍)2018

『森の生活(新装版)』 ヘンリー・D・ソロー/著 真崎義博/訳 (宝島社)2005

『神去なあなあ日常』 三浦しをん/著 (徳間書店)2009

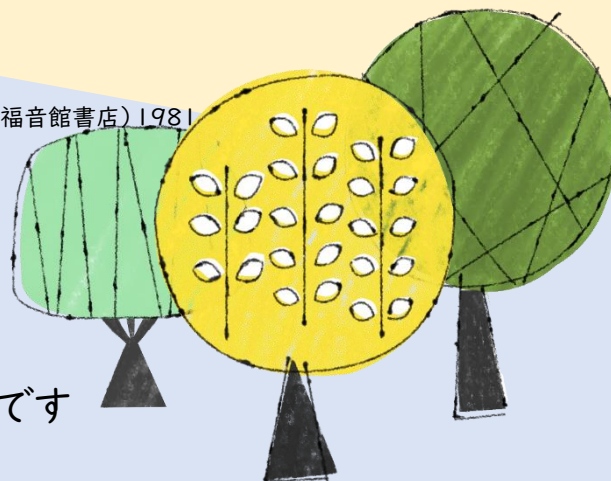
『大きな森の小さな家』 ローラ・インガルス・ワイルダー/作 ガース・ウィリアムズ/画 恩地三保子/訳

(福音館書店)1972

『木はいいなあ』 ユードリイ/作 シーモント/絵 (偕成社)1976

『もりのこびとたち』 エルサ・ベスコフ/さく・え おおつかゆうぞう/やく (福音館書店)1981

『もりのえほん』 安野光雅 (福音館書店)1977



4 階図書館にて展示中です

愛林館館長/自由飲酒党総裁(水俣市)

沢畑 亨氏 おすすめの本

- 『イマドキの野生動物』 宮崎学/著 (農山漁村文化協会) 2012
宮崎さんの本は、獣害を考えるヒント満載です。

- 『うねゆたかの田んぼの絵本 Ⅰ 田んぼの四季』
宇根豊/作 小林俊也/絵 (農山漁村文化協会) 2020
宇根さんの本は、発売直後で図書館にはまだなかでしょう。
森と棚田は隣りにあって、棚田のことは森とは関係なかでしょうが、
などと考えるような狭い人には森づくりもわかりません。

- 『絶望の林業』 田中淳夫/著 (新泉社) 2019
田中さんの本は、林業の業界事情に詳しくて、いろいろと
まずいことも多いのですが、これが現実。

NPO 法人コロボックル・プロジェクト 理事長(熊本市)

甲斐原 巖氏 おすすめの本

- 『だれも知らない小さな国』 佐藤さとる/作 村上 勉/絵 (講談社)
小人コロボックルの国がある小山に道路が通る計画が立てられ、それを
セイタカさん・小人の信頼を得た人間とかえさせようとする物語。
本法人(NPO 法人コロボックル・プロジェクト)の原点。

- 『くまもとの自然シリーズ ② 金峰山の自然』 (熊本生物研究所) 1987
金峰山の自然環境はじめ、地形・地質や植物、野鳥、昆虫、その他の動物
を写真と略説で紹介。
本法人(NPO 法人コロボックル・プロジェクト)の自然観察・自然体験
活動の参考書の一つ。

- 『自然と人間 森は生きている』 富山和子/著 (講談社) 1994
川は生きている・お米は生きている との三部作の一つ。
森里川海のつながりを分かりやすく解説。

水俣森の会 代表(水俣市)

高倉 敦子氏 おすすめの本



●『樹木たちの知られざる生活 森林管理官が聴いた森の声』

ペーター・ヴォールレーベン/著 長谷川 圭/訳 (早川書房) 2017

樹木には驚くべき能力と社会性があり、子どもを教育したりコミュニケーションをしたり、長い時間をかけて移動したりと、まるでファンタジーのような話を科学的観察眼と具体例で押さえていて、ああ、こういう人の授業を受けてみたい!世界的ベストセラーになったとのこと。森の声を聴く力、日本人には元々あった感覚なんだと思いました。

この本を読むと必然的に森に行きたくなるでしょう。ミステリアスな世界に触れたい!ただ今熟読中。

●『山と森の生活誌』 遠藤 ケイ/著 (日本放送出版協会) 1994

山の中に丸太小屋を建てて自然生活を実践しながら文章とイラストを描いている遠藤さんの、自給自足に近い在り方は、ずっと憧れてした。民俗学研究のため全国を歩き、山や森に関わる人たちの話を採取、そしてまた自ら道具を作って試してみるという実践。へたな学者よりずっと説得力のある文章。イラストには自然と人間に対する愛情がこめられている。

本を開くと扉にはこうあります。

「探求心の旺盛な人間にとって、最もありふれた事実こそ、常に最大の喜びである」

ヘンリー・デイヴィット・ソロー

やっぱりここにもソローの存在があった!

●『山菜と木の実の図鑑』 おくやまひさし/著 (ポプラ社) 2003

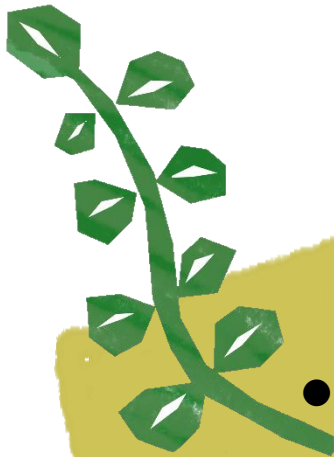
文字通り、生きていくために必要なものは森に行けばあるよ♪

そう力強く親切に訴えかけてくる奥山ワールド。図鑑だけどもめちゃくちゃあったかくて、これ以上ないというくらい使える。ふりがなつきだから大人から子どもまで。

でもこういう山や森が今どのくらい残っているんだろう?

野山を歩くことは当たり前だった子ども時代。おやつは自分で調達。それは至福。

この一冊があると、野山を探して歩きたくなってくると思う、そうあってほしいです。



Reborn 代表(八代市)

溝口 隼平氏 おすすめの本

- 『森へ 月刊たくさんのふしぎ』星野道夫/文・写真(福音館書店)1986
何度も何度も読みました、ただただ、魅了されました。星野道夫さんが、500年ほど前の日本の森を撮ったらばどんな写真になるだろうと妄想することがあります。
- 『雲の峰 鮭の川』ブルース・ブラウン/著 池 央耿/訳(新潮社)1984
海と山と川と人と社会がどうあるべきか。ずっと前に書かれたこの本による警告内容がいまだに新鮮であることが残念でなりません。
- 『土中環境 忘れられた共生のまなざし、蘇る古の技』
高田宏臣/著(建築資料研究者)2020
映画アバターで描かれていた、あらゆるものが繋がっているあの森が、実は足元にもあったんだ、としみじみと。俯瞰したり潜ったりして繋がりを社会全体で再認識する作業が今必要なんだろうなと思いました。
- 『ドングリ・ドングラ』コマヤスカン/著(くもん出版)2015
図説:火山性荒廃地における極相遷移過程の謎についての一考察